

対面診療に比したオンライン診療の非劣勢試験

COVID-19によって症状増悪が懸念される精神疾患を対象とした検証

J-PROTECT (Japanese Project for Telepsychiatry Evaluation during COVID-19: Trial for Treatment Comparisons)

① 共同研究・産学連携への意気込み



講師
中前 貴

本研究を通じて精神疾患へのオンライン診療の有効性と安全性が示され、広く普及していくきっかけにしたいです。本学では主に強迫症のデータ収集に貢献します。

② 想定される連携先・移転先

慶應義塾大学が中心となり、大阪医科大学、東北大学、横浜市立大学、本学、ならびに複数の民間医療機関と共同で行う多施設共同研究です。

キーワード

オンライン診療、COVID-19、強迫症

研究内容

新型コロナウイルス（COVID-19）の拡大に伴い、うつ病、不安症、強迫症といった精神疾患の症状増悪が懸念されています。こうしたパンデミック下において、ビデオ通話を用いて診療を行うオンライン診療は、感染防御という観点から非常に有用な医療提供手段であると考えられ世界的に急速に広まっています。本研究では、外来患者200名を対象に従来の対面診療群と、オンライン診療群に無作為に割り付けて24週間の治療を行い、オンライン診療の有効性と安全性が対面診療と同等であることを示すことを目的としています。

